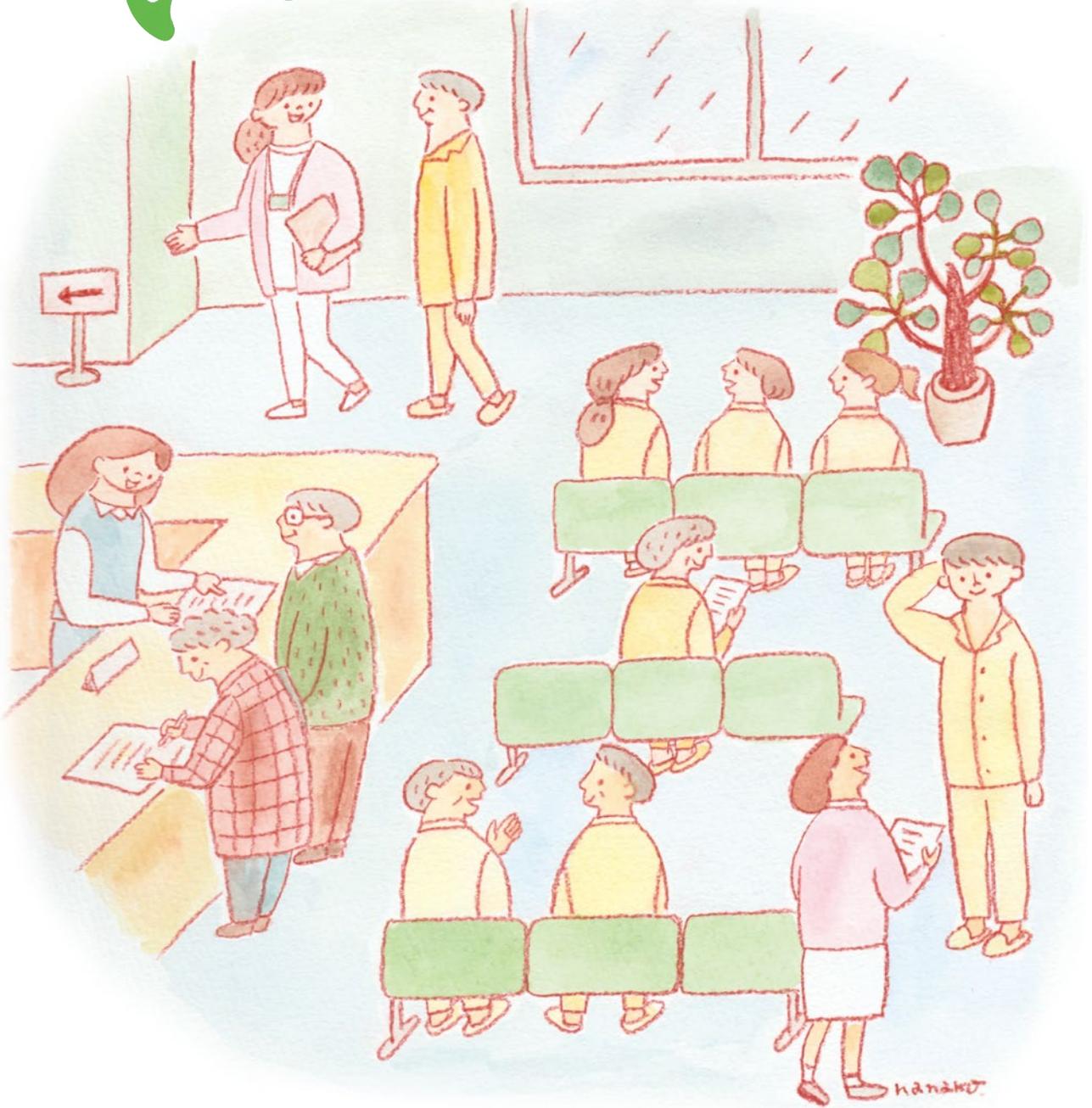




松下記念病院

Vol.31

秋号
2015



診療科
見学note

耳鼻咽喉科

特集

ドック健診の
申込受付がスタート!!

- 病院のなあとこれ？
LI (Laboratory Information) 室 開設
- Close up お仕事
診療情報管理士
- 生活習慣 navigation
糖尿病の予防法

耳・鼻・のどだけではなく、
首に出来た腫瘍の手術やめまいの治療も行っています

耳鼻咽喉科ではこんな病気を診ています。

- ・ 耳(中耳炎・外耳炎・難聴)
- ・ 鼻(副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎)
- ・ のど(扁桃炎、声帯ポリープ)
- ・ 頭頸部腫瘍
(甲状腺腫瘍・耳下腺腫瘍・顎下腺腫瘍)
- ・ めまい
(良性発作性頭位めまい症、メニエール病)



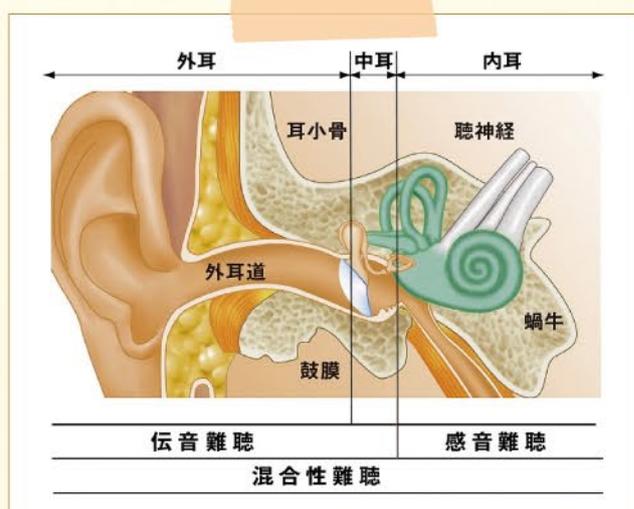
「聞こえ」でお困りではありませんか？

家族にテレビの音が大きいと言われたり、後ろから話しかけられても聞き取れないことがありますか？「聞こえ」は家族や周囲の人とコミュニケーションをとるためにとっても大切なものです。「聞こえ」が低下すると日々の生活にいろいろな問題を引き起こします。

難聴には伝音難聴と感音難聴の2種類があります。

伝音難聴は鼓膜の損傷や中耳炎などにより音の伝わりが障害された難聴で、手術によって回復させることが可能です。

感音難聴は加齢や突発性難聴、内耳炎などにより音を感じる神経の働きが弱ってしまった難聴で、治療で回復させることは困難ですが、補聴器で「聞こえ」を補うことができます。

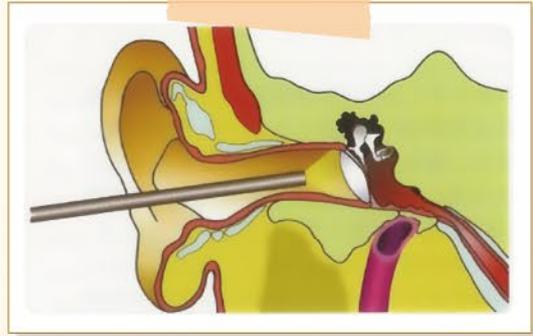


伝音難聴と 内視鏡下耳科手術

伝音難聴は穴の開いた鼓膜を修復したり、耳の中にある音を伝える耳小骨をつなぎ直す手術をすることで難聴が改善する可能性があります。

従来の耳の手術では顕微鏡を用いていました。しかし、顕微鏡の視野は直線的であるため、良好な術野と十分なワーキングスペースを得るために耳の後ろを皮膚切開し、広範な骨削開が必要となる場合があります。

近年、耳の手術に使用できる細い中耳内視鏡が開発され、内視鏡下耳科手術が行われるようになってきました。中耳内視鏡は広角で拡大して映せるため、顕微鏡では死角となって見えないとこ



ろでも観察しやすくなり、軽症の慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎であれば外耳道から手術を行うことが可能となりました。傷が少なく、かつ精確な手術操作が可能となり手術成績も良好です。

一方で乳突洞に病変が進展している場合など、まだまだ従来通り顕微鏡を用いて耳介の後ろを切開して手術しなければならない場合もあり、使い分けが必要です。

(7月開設)

補聴器外来

残念ながら治療で回復する見込みのない両耳の難聴の患者様には補聴器をお勧めしています。当科では平成27年7月より補聴器外来を開設し、気軽に補聴器を試していただけるようにしました。補聴器を装用すると昔と全く同じような聞こえに戻るわけではありませんが、今まで聞こえなかった音が聞こえるようになることで、生活の様々な場面での不便が軽減され、より快適に暮らすことができます。



聴力検査の様子

補聴器外来スタート

耳が聞こえにくい等の患者さまは、
松下記念病院 耳鼻咽喉科へご相談ください

**耳鼻科診察を受けた後、
補聴器外来が必要か判断します。**



経過を観察するのか
補聴器のフィッティングを行うのか
聴力改善手術を行うのか
人工内耳を選択するのかなど

補聴器外来

- ・聴力検査
- ・難聴の診断
- ・補聴器の適応決定

松下記念病院、補聴器外来では
補聴器専門店と連携して、フィッティングを行います。
高額の器械ですから、まずは試しに使用いただき何度か調整をして患者さまとの適応が良いと判断した時点で購入していただきます。

**適正に補聴器を使えるような指導・フォローアップ
をしています。**



スタッフ紹介

耳鼻咽喉科医師

部長 渡邊 大樹

耳鼻咽喉科専門医、補聴器相談医
専門分野：耳科手術、めまい、鼻科手術

医長 足立 直子

耳鼻咽喉科専門医
専門分野：耳鼻咽喉科一般



ドック健診の申込受付がスタート!!

～“健康”はご自身にとって最高の宝物です～

松下記念病院のドック健診センターはパナソニック健康保険組合が健康管理センターとして1986年に開始して以来、毎年10,000人を超えるパナソニック従業員およびご家族の健康づくりのサポートを行ってきました。

本年11月より対象者を拡大して新たに地域にお住まいの皆さまにも申し込ただけのようになりました。健康で豊かな人生を過ごすために当院のドック健診をひとりでも多くの方にご利用いただき、疾病の予防と早期発見にお役立てください。

松下記念病院 ドック健診センターの特徴

1. 安心と信頼の実績

これまで築き上げた確かな実績をもとに豊富な経験と知識を持つ医師が診断にあたり結果説明を行います。

2. 充実した検査機器

松下記念病院が備える高性能な検査機器を活用して迅速かつ正確な診断に努めています。

3. 病院との良好な連携と早期治療

松下記念病院の一部門としてのメリットを最大限発揮します。診断の結果、精密検査から入院治療に至るまで早期に適切な治療を円滑に行います。

ドック健診の検査項目 およびオプション検査

(主に内科領域の検査が中心です。)

ドック健診費用 43,200 円(税込)

オプション検査料金

ドック健診項目
身体計測
眼底・眼圧測定検査
胸部 X 線検査
診察
上部消化管検査
腹部超音波検査
循環器系検査
血液検査
尿検査
前立腺がん検査(男性のみ)
婦人科検査(女性のみ)
便潜血反応
面談
保健指導

オプション検査	料金(税込)
肺がん検査(肺CT) (A)	10,800円
上部内視鏡検査(胃カメラ) (B)	8,640円
動脈硬化検査(血圧脈波検査)	3,240円
経膈超音波検査	1,080円
乳がん検査(マンモグラフィ2方向)	3,240円
乳がん検査(乳房超音波検査)	3,240円
骨粗しょう症検査(骨密度測定)	2,160円
腫瘍マーカー(血液検査) (C)	4,320円
C型肝炎検査(血液検査)	2,160円
ピロリ菌検査(血液検査)	1,080円
アレルギー検査(血液検査)	各10,800円
視野検査	1,080円

脳ドック検査
32,400 円(税込)

がん PET/CT 検査
108,000 円(税込)

総合 PET/CT 健診 175,040 円(税込)
(PET/CT 検査+ドック健診+(A)+(B)+(C)+腫瘍マーカー検査 AFP+SCC)

受診当日のスケジュール

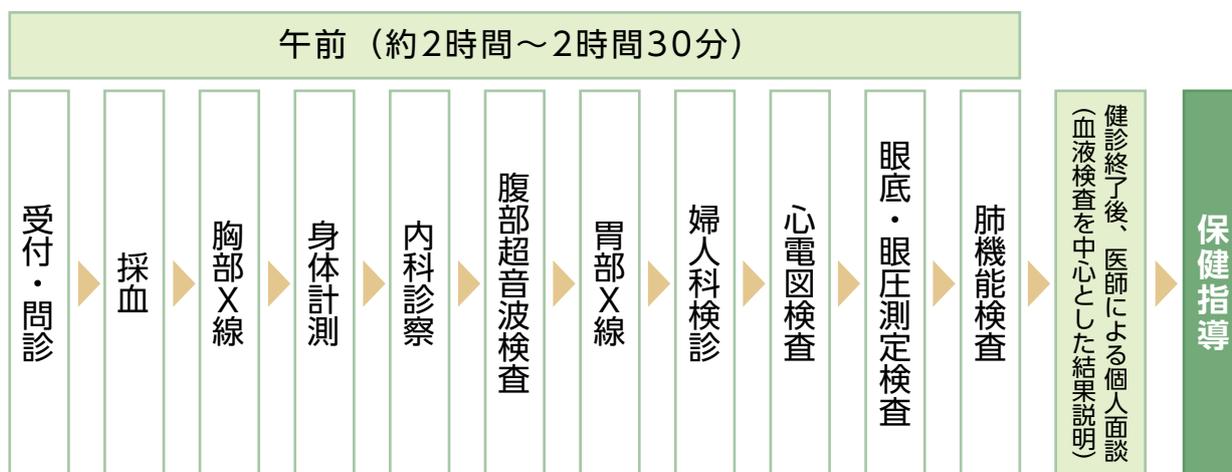
健診実施日 月～金曜日（日・祝日および当センターが休日と定めた日を除く）
土曜日（月1回程度）



健診開始時間

A班	午前8時15分	B班	午前8時30分	C班	午前9時15分
----	---------	----	---------	----	---------

当日の流れ



※検査の順番は混み状況等で変わります

申込方法

ドック健診は予約制です。電話にてお申込みください。

11月(1日～30日)の受付を9/15より開始いたします。

松下記念病院
ドック健診センター ドック健診予約係

【TEL】 **06-6992-5611**
(平日 13:00～16:45)

【受付期間】 受診希望日の2ヶ月前の15日より受付





臨床検査科

LI 室開設 (Laboratory Information)

～臨床検査(血液・尿など)の疑問にお答えします～

診察時間内に検査の目的や内容を充分確認することが難しい場合があります。そのような時には、ぜひ松下記念病院臨床検査科にお立ち寄りください。当院で受けられた検査(血液・尿など)に限りますが、説明・相談・情報提供を行っております。詳しい説明をお聞きになりたい方は臨床検査科受付にお越しください。

II 申込方法 II

場 所：2階 臨床検査科 受付
 受付時間：10:00～15:00(平日のみ)
 (1人あたり15分程度)
 費 用：無料



II 説明に使用するリーフレット II

病気・症状についての内容や検査項目をはじめ、数値の見方や、今後の対策などを記載したリーフレットを提供しております。

よくわかる検査シリーズ①

糖尿病と検査のお話

糖尿病は自覚症状が強いことが多く、治療せずに放置している人が少なくありません。糖尿病の怖さは、放置してほ々に進行し、最終的に失明や下肢の切壊など多くの合併症を招くことです。検査で病状をチェックしコントロールし続ければ、糖尿病患者でも健康な人と同じように過ごすことができます。検査の意味と必要性をよく理解しておきましょう。

血糖値
 血糖値とは血液中に含まれるブドウ糖の濃度のことです。100cc中に何mgのブドウ糖が含まれているか濃度で表します。血糖値は食事によって大きく変動するため、検査のタイミングによって、いくつかの種類があります。

空腹時血糖値	食後2時間血糖値	随時血糖値
10時間以上何も食べずに測った値	食事開始2時間後に測った値	食事の時間と関係なく測定した値
血糖値がもっとも低くなるタイミングの値で、診断と治療効果の判定の両方に用いられる。	血糖コントロールの状態、とくに食後高血糖があるかどうかをみるために用いられる。	診断や血糖コントロールの指標に用いられる。正常の場合140mg/dlを越えることはない。

HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)
 長期的な糖尿病コントロール状態の指標で、過去1～2か月間の血糖コントロールの状態(血糖値の平均)を反映します。高血糖が続く血液中のヘモグロビン(酸素を運ぶタンパク質の一部)に糖がしっかりと結合します。ちょうど鉛筆にコゲつくようなものです。その赤血球の寿命が尽きるまで離れません。健康人では6.0%未満(NGSP)国際標準値)です。

Aさんの血液

HbA1c 5.2%

Bさんの血液

HbA1c 9.0%

BさんはAさんに比べ、血液中にはたくさん糖が赤いヘモグロビンにもたくさん結合がついています。HbA1cの検査は、ヘモグロビンにくっついた糖を測定しています。

コントロールの評価とその範囲
 血糖値やHbA1cは糖尿病のコントロールの良し悪しを知るための大切な指標です。コントロールの状態の判断のために下の表のように目安が設定されています

指標	優	良	可	不良	不可
HbA1c (NGSP)国際標準値) %	6.2未満	6.2～6.9	6.9～7.3	7.4～8.0	8.1以上
空腹時血糖値 mg/dl	90～110未満	110～130未満	130～160未満	160以上	
食後2時間血糖値 mg/dl	90～140未満	140～180未満	180～220未満	220以上	

松下記念病院 臨床検査科
2024.4.25

- ①糖尿病と検査のお話
- ②肝臓病と検査のお話
- ③腎臓と尿検査のお話
- ④脂質異常症(高脂血症)のお話
- ⑤貧血のお話
- ⑥狭心症と心筋梗塞のお話
- ⑦甲状腺のお話
- ⑧前立腺と検査のお話
- ⑨アレルギーのお話

診療情報管理士とは、診療録(カルテ)を高い精度で機能させ、そこに含まれるデータや情報を加工、提供、分析、編集し活用することで医療の安全、質の向上および病院の経営に寄与する専門職です。



カルテ開示

当院のカルテ開示の窓口となります。
カルテ開示は、患者さまと医師との信頼関係に基づく「安心・安全な医療」の実現に有効と考えています。



◎ 管理士の仕事

私たち診療情報管理士は、紙のカルテに始まり、現在の電子カルテの情報に至るまで、幅広い医療情報における収集・提供・管理業務を担っています。

監査・情報提供

1. 情報の元になる記録における不備をチェックし、完成度の高い診療録にするためのカルテの監査
2. DPC（包括医療制度）における厚生労働省へ提出する資料作成
3. 統計/年報作成、データ抽出等



◎ 院内がん登録

管理士は、日々の業務の中で多くのがん情報を扱うことを活かし、院内がん登録も行っています。またそれらを大阪府や国へ報告することで『がん対策』・『がん撲滅』という日本の国家プロジェクトへの一助を担っています。今後は、登録実務から見えてくる罹患率や生存率を導き出し広報することにより、『がんの予防・早期発見・早期治療』に繋がりたいと思います。

◎ 診療情報管理室について

診療情報管理室は病院の診療部門に属し、副院長直轄の部門として設置されています。

現在、職員は4名体制で業務を行っています。私たちはこれからも患者さまに対して、医師をはじめとした医療従事者が、安心・安全な医療サービスを提供できるためのサポートに努めます。

糖尿病の予防法は 肥満を防ぐことが最大のポイント



糖尿病は早くみつけて、早めに治療することが必要です。検診などで血糖値の異常を指摘されても、自覚症状がないので軽くみがちですが、そのまま治療しないでおくと知らず知らずのうちに病気が進行します。軽症の間に食事療法や運動療法などの治療を開始し、病気と気長に付き合うことが大切です。少しでも健康的な生活を送りましょう。



食 事療法では一般的に、まず自分にとっての適切なエネルギー量を知りましょう。続いて栄養バランスの取れた献立を心がけ、1日3回ほぼ均等量で規則正しく食べましょう。最近では、同じメニューの食事を食べる場合でも、①野菜(きのこ類・海藻類も含む)を食べきり、②たんぱく質(肉・卵・魚介類・大豆)のおかずを食べ、③ごはん(パン・麺類・いも類を含む)を食べる『食べる順番療法』が注目されています。さらに時間をかけてゆっくり食べると、それだけで血糖値が下がるというものです。『食べる順番療法』は何の用意も必要ありません、食べる順番だけです。一度試してみてください！

糖 尿病患者の中には、運動療法を禁止されている方がいます。そうでない方は、一般的には1日に20～30分程度、食後にウォーキング(1日に1万歩が目標)などがおすすめです。大事なことは、少しの時間でも常に体を使うことを心がけ、日常生活に運動を取り入れる工夫をする事です。以前は『30分以上の有酸素運動(ウォーキングなど)]が推奨されていましたが、最近では『有酸素運動とレジスタンス運動(筋肉トレーニングなど)を組み合わせ、小刻みでも良いから運動を集積させ、少なくとも週に150分以上の運動をするべきである』とされています。さらに、ある論文では『1日15分の運動が3年も寿命を延ばし、少しの運動でも運動しない人よりは寿命が長くなる』と報告しています。つまりは、可能な範囲で良いので、少しでも運動をしましょうね。



松下記念病院 糖尿病・内分泌内科

